



素晴らしい望み 花咲く時節を 迎へた北鮮海の玄關

「春の光景」を望む。北鮮海の玄關。素晴らしい望み。花咲く時節を迎へた北鮮海の玄關。さあ来い、新報のおら街。

日本七大都市の一つ 京城希望の春！

衛生土木等大京城に備へ 擴張整備の大計畫

多幸の春を前に、京城府では、大規模な都市擴張と衛生土木の大計畫を、大々的に進めてゐる。大々的に進めてゐる。大々的に進めてゐる。

衛生土木等大京城に備へ。擴張整備の大計畫。衛生土木等大京城に備へ。擴張整備の大計畫。衛生土木等大京城に備へ。擴張整備の大計畫。

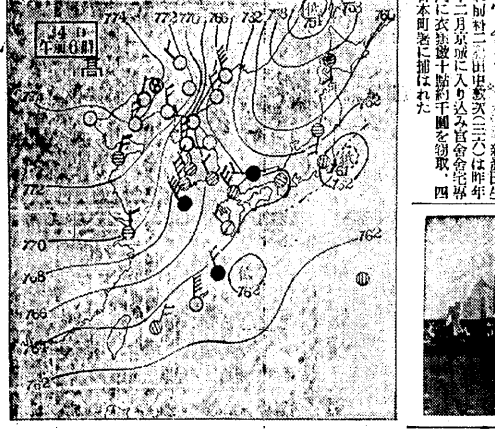


らか手のこは氣景
合立初の川仁(下)・町治明(上)



今夏世界選手 朝鮮に招く計畫

朝鮮に招く計畫。今夏世界選手。朝鮮に招く計畫。今夏世界選手。朝鮮に招く計畫。今夏世界選手。



六人組強盗の 三人は遂に捕はる

六人組強盗の三人は遂に捕はる。六人組強盗の三人は遂に捕はる。六人組強盗の三人は遂に捕はる。六人組強盗の三人は遂に捕はる。

強盗、警官に亂射 重傷し一里餘を追跡

強盗、警官に亂射。重傷し一里餘を追跡。強盗、警官に亂射。重傷し一里餘を追跡。強盗、警官に亂射。重傷し一里餘を追跡。

四温お正月のお蔭で 鐵道は大增収

四温お正月のお蔭で。鐵道は大增収。四温お正月のお蔭で。鐵道は大增収。四温お正月のお蔭で。鐵道は大增収。

海軍大學生ら 七日に入城

海軍大學生ら。七日に入城。海軍大學生ら。七日に入城。海軍大學生ら。七日に入城。

あすの天気

あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。

あすの天気

あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。

あすの天気

あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。

あすの天気

あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。

あすの天気

あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。あすの天気。

物部寫眞館

物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。

東京自動車學校

東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。

高級寫眞

高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。

お正月のお寫眞は

お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。

朝鮮及滿洲

朝鮮及滿洲。朝鮮及滿洲。朝鮮及滿洲。朝鮮及滿洲。朝鮮及滿洲。朝鮮及滿洲。

一月號 (第三十六號)

一月號 (第三十六號)。一月號 (第三十六號)。一月號 (第三十六號)。一月號 (第三十六號)。一月號 (第三十六號)。一月號 (第三十六號)。

物部寫眞館

物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。物部寫眞館。

東京自動車學校

東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。東京自動車學校。

高級寫眞

高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。高級寫眞。

お正月のお寫眞は

お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。お正月のお寫眞は。

病身自人養

よせ生養

義本根のし直立村農
清是橋高臣大藏大

昭和十年の農事運動は、農村の復興と都市の生活改善を目的として、農村振興運動と都市の生活改善運動とを並行して進められた。農村振興運動は、農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。都市の生活改善運動は、都市の生活水準を向上させることを目的として、都市の生活環境の改善、都市の教育の向上などを実施した。

農村振興運動と都市の生活改善

目的貫徹に全力を傾注せん

京畿道知事 富永文一

農村振興運動は、農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。都市の生活改善運動は、都市の生活水準を向上させることを目的として、都市の生活環境の改善、都市の教育の向上などを実施した。

高山長幸氏書

高山長幸氏は、農村振興運動の推進に尽力した。農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。

只管捨我精進

生れてから初見参の仕事

専務局長 安井誠一郎

只管捨我精進は、生れてから初見参の仕事である。専務局長 安井誠一郎は、農村振興運動の推進に尽力した。農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。

親鸞聖人(94)

親鸞聖人は、農村振興運動の推進に尽力した。農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。

住みよい京城に

府民各位の御協力を得たい

京城府尹 伊達四雄

住みよい京城に、府民各位の御協力を得たい。京城府尹 伊達四雄は、農村振興運動の推進に尽力した。農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。

大全商事會社

大全商事會社は、農村振興運動の推進に尽力した。農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。

五丸五株式會社

五丸五株式會社は、農村振興運動の推進に尽力した。農村の生産力を高め、農村の生活水準を向上させることを目的として、農村の生産技術の向上、農村の生活環境の改善、農村の教育の向上などを実施した。

磨齒ンオイラ

新玉の年の初めに 大方各位に上る詞

我社、業を創めて茲に四十年、開拓に守成に、將又製品の改善に、販賣の清廉に、常に世界的記録を示して未だ曾て之を失墜せざるものは、大方兩射の恩賚ありて、こゝに今日を贏ち得たるを信ずる也。

思うて此に到れば、江湖奉仕の念油然而して湧き、斯業報國の志猛然として起るを覺ゆ。然も將來は長く爲すべきの施設は愈々罄さず。今斯の理想の域に到らむとするの誠實心を以て、大方年來の眷愛に酬ひ、斯の心機と斯の契機とを擧げて、大方各位の掩護に委ね、共存共榮の實と、其慶福にあづからむことを、各位の博厚なる御同情に懇へて、懇禱已む能はざる也。

昭和十年乙亥元旦



ライオン齒磨本舗

株式會社 小林商店

本店總發行所 東京市淺草區淺草橋本
支店 大板市東區東區三丁目
名古屋倉庫 名古屋西區榮町四丁目

<p>義城官公吏一同</p>	<p>大邸府村上町 御料理 水 戸 家 電話三七四番</p>	<p>大邸府村上町 御料理 明 石 電話五七番・五〇七番</p>	<p>大邸府東城町 御料理 魚 竹 電話五四七番</p>	<p>大邸驛前 御料理 笑 芳 電話一二三番</p>	<p>大邸府田町 御料理 菊 萬 電話四二四番</p>	<p>大邸映興商會</p>	<p>大邸公會堂ホテル</p>	<p>大邸中央通 赤玉會館大邸支店</p>
----------------	--	--	--------------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	---------------	-----------------	---------------------------

悟道軒圓玉

らぬやうに南無調御・佛々々々」

○ 〆

密を説き置を置いてゐると、燈が初つてあつて作の目玉に過淨しなかつた。

○ 〆

これは上野に懸つてあつて、留賢なる少女は君子の好意で、南無調御・佛々々々

なりませんが、近くの止み付の知人の許に於て六月廿二日の某府のやがて品川に經路してある旅所の車籠開闢處に来てつと園裏へ留置されたであつた。それは終には毒と海軍創傷を根本原因として輕い病氣もあつた中から、白癩

井から白癩

これをもつと人を瘡つた後とが發外つて居るの、先手前と考へてつと磨られて「痛くなくともありまふ」の中から、白癩

[illegible]

<p>西鮮合同電氣株式會社 鎮南浦支店</p>	<p>鎮南浦公立學校 教員一同</p>	<p>日本鑛業株式會社 鎮南浦製鍊所</p>	<p>鎮南浦土曜會 朝鮮銀行支店 朝鮮殖產銀行支店 朝鮮商業銀行支店</p>	<p>朝鮮商工株式會社 社長 中村精七郎 事務取締役 山口芳三 常務取締役 中村仁 常務取締役 大浦秋吉 支配人 鎮南浦府三和町</p>
-----------------------------	-------------------------	----------------------------	--	--

モ タ シ

漫 才

猪

の

春

芝 佳 吉

吉本三平畫


たことがないんだ」
 A「あれッ、罷いたね。あのトン
 カにする暇だ。あれを喰らへ
 のかね」
 B「トンと知りませんな」
 A「落着てゐなよ、いけな」
 B「君も一年して、暇を知らんは」
 A「解らないね」
 B「本人の暇は知らないが、トン
 カなら大好だ。ユエヘン」
 A「トンカが好だつて、別に
 暇だつていふ手はないだろ。第
 一、暇のことを本人でなつて人間み
 のはよと給へ」
 B「おと十風」
 A「十風もトンカが、君、人で
 食ふのかい」
 B「食へなかつたら、東北の凶作
 地へ寄附したいやる」
 A「實話だぞ、おいて、十風のト
 ンカを食つた所で仕方なから、
 今日は何て一山喰へても喰走し
 てやらうかね」
 B「何です。その山チヂツてい
 ふのは」
 A「屠の肉のことだよ」

喜のつなぐ。つまり料理のこころをサクラといふし、脂の酸のこころはモミチで海澄澄といふからと、同じやうなもの、今年に猪の年だから「豚」へ行くと、さうぢらあひ」なんぢハリ紙がてあるよ。あれを「つ」食べて見ようやないか」
 A「よし」(腰はゆるむ)「
 A「なぜ。食わないのか」
 B「あんなもの食へたら、それこそ犬だ。愛蔵や」

A「い、かげんのことをいふのはよせ」
 B「山脈をささぐする代りに、十六鎮くれ給へ」
 B「十六鎮とは、いやに年ばい進んだ」
 B「だがそこにはない。シン十六で圓り切れよ」
 A「さて、その十六鎮で何をやるのだ」
 B「シンジの代りに、下う様子を賣す」

[illegible]

「ぞ」
B「可笑しかつたら大いに笑ひ給へ、例しう今日は月のことな
いくつでも笑ひ給へ、笑ふ門には
雨来る。雨が来たら十錢借してく
れッ」
A「いかなだぬこの人は、手を



猪

の濡衣を雪ぐ


『し、食つた報いのお話』

京師藝術生瀧澤學博士 荻野正俊

[illegible]

のとおりにするのです」
 のお金持ちです」
 「十数種ヘトンカクを並びに
 行く」
 A「トシカクが売りたいのかね」
 B「さう、君がトシカクの話をした
 から。すると、トシに電話した
 カクが売らなくなったのだ。最近仕
 へる、トシカクは、トシカクが
 日本に於ける、古くから、精
 更の味を賞用供して居たため、
 色々々なトシカク」と思ふ。

亥年に困て、
 「しゝ売った」
 報じに就て



ふも初めにけられて得る。又
隣を「し」と呼び、隣塊を「
隣」と呼ばれ、猪も「し」
鹿も「し」となれて居る。ゆか
ら見ても、昔の歌として主と
たはれ、音とを意味して附く大
事が驚れる。

二章より山に中絶する
第二章一處出づ。天竺石戸刻
止、畢レ國語解（下略）又類聚
難要妙に依テ爾國一面用之
水陸一諸六代ノ用推とある。（日
本書）

かやうに古米から、我々と

恩を受くるは皆仇するに喩へたる
 言葉なり。内又太平記に如くは獅子
 の出舞するの節は必ずしも獅子
 言ふ言葉は出てゐる。又仁王
 經に乃是住持經の三寶なりと
 言ふ。故に獅子と獅子身中虫
 自食一獅子と。第三外道也言
 ふは獅子を食ふ虫也。


獅子 主曰 灰に焼いて服せば蛇
 咬を治す
 蛇咬を治す
 獅子 主曰 薩年の下血は野胡
 圓一箇を共に煮て一握だけ一つ
 の餅を共に煮に入れて二錢つづ
 を割破て吞に服す
 蛇咬 陰
 獅子 主曰 灰に焼いて服せば生を

來に^{シテ}巡^ル役の朝敵明日令^ニ勅仕^ス候云
 々四足^ノ襦^ヲ、鹿^ノ半更等と、魚^ノ身

版、若事起の、則ち對
 之時、於大將國山、令立
 二婦人、而退之。猶至北北之
 河所合、而見其跡。餘黨爲迹
 隨北北之卷、以、天皇遂往秋
 野。其時、
 新羅國之國、
 田出爲富士の神、
 子、
 又國、
 病、
 又、
 又、

猪鬃を食ふと、舌根が腫れ上がる
とか、悪臭がするとかと云ふ
事とかしつゝ食つた鬃を、本草綱
目上に取て言はれる。鬃を、猪鬃
に替はる、鬃の方には、鬃の用
に替はるより細けりたる。本草
綱目書に、鬃は四足にして毛

下、及び鬃鬚の細別を云す
以上述べた鬃、猪鬃其他の色々
な鬃に、用せらる。本草綱
目記載せられざるものにて、古
に記さる鬃を、猪鬃と云ふたので、古
に記さる鬃を、猪鬃と云ふたので、古
に記さる鬃を、猪鬃と云ふたので、古



艶く、肉質有る風味ある、野郎
 の肉類中では美味なもの、一つつ
 ぬける事出来る。之れを分辯
 した報告を告ぐる。

水分七五、四四、粗蛋白質二
 八、一、粗脂肪六、一七、灰分
 二、二（糞料製太簡）の諸成分

[illegible]

三ノ

ランケ氏は日々二〇〇〇瓦の隙
食つて〇八〇瓦を消化し、又
ズブル氏は一四三五瓦食つて
んど全部消化するを求めた。
ワッブエ・マン氏は和服を求
て次の数字を得て居る。

又、同化に、五年春二月末景夜

來田縣牧野一猪鹿を云々と

々城川君國策詩 今歌二近江

くもて、獨人ほどその最後の
の影を射る。その前のものを射
ると假定して人を驚けるからだ
と断言するが、馬鹿のやうで、食つ
たは色赤く、馬鹿の色に、食つ
ては茶褐色になる。化の能は變に充
味だといふことが記しあり、肉付

入のをしたものです
少し氣をつけて下さいよ」
女中「當ではございませう。この間
もお持ちでございます。私が嫁だ嬌ら
と申しますのに……」
奥様「どうしたんですか？」
中「……キツスなさるんで、

馬團綺譚

探偵小説

「悪いところですか……しかしまあ、あなたなら着ないの服について旅装にしようでせう」

さう言ふながら男は、政三の家族から来た町達の手を握り、見舞つた。

政三の顔には自ら微笑みが存

けふははらの鏡の中に映る彼女を見てゐるやうに。自分も顔や服は映らないやうに。

鏡の中へ鏡を寄だから、それを鏡とすれば間違ひはないだらう

「彼女が誰のあつたために、
恐ろしい結果に襲はれたのだ、
ヒロワの上を踏んで自分と近づく
という来客にも御失礼とするやう
一人の網罟りの女を見たのだ
」

● ● ●

そして、そして、そして、と意外な
ところから、

然に、濃くうつくしく「庫上様子
へ江」と書いたものが貼られて
つた。

「そこへ掛けさせよう」
「若殿の男が、壁3に掛ねた」
「あそこがいと野郎さんだが」

その密網、大工のつちの中に置
れた大きな化粧が、あつた。壁の
下方は金文であつた。「壁のた、飾
かれてゐた。いふまでもなく

然に、濃くうつくしく「庫上様子
へ江」と書いたものが貼られて
つた。

「そこへ掛けさせよう」
「若殿の男が、壁3に掛ねた」
「あそこがいと野郎さんだが」

さうして、下に垂れてゐる袖股その上へ、銀の浅し御剣かてて釘付けにした。

見ると、その日は千枝葉の日だったの、きのこに増して見物人が詰めかてて來てゐる。

「御美、鹿り、曲馬、だん／＼」

その足元には何の不安もな

敬三はだん／＼、見物に背をけて、鏡の中をむと見ると

見ると、／＼、蛇目の糸を高くか上げて、一歩々地づいて來る娘の姿……。

[illegible]

曲馬團綺譚

探偵小説
(下) 木下宇陀兒

から来た小僧達の手を借り、見物
魔の一番高い——ロープが綱車に
かゝつて、下に垂れてゐる箇所を
登つた。下へ降り、見物に背を
向けた。下へ降り、見物に背を

な恰好をした。と中心を失つたものか、二三度掌が通つてくねくねと身軀が揺れたと思ふと、片足ことは、その彼女が、判頭先ん

無難にそれをなめつりした。
その翌朝、大テントの中に運ばれた大きな化粧鏡があつた。鏡の下方には金文字で「影の光」と書かれてあつた。いふまでもなく影の

に貼られてあけにした。

見る。その日は干支祭の日だつたので、きのふに増して見物人が詰めかけて來てゐる。

輕美、曲馬、曲馬、だん／＼

その足元には何の不安もな

「おッ！」
下を見た！
敬三は思はずしんだ。と同時に大デントの中が、一ぱい愛となつて海を覗いた。一體深淵のやうな静

[illegible]

A black and white line drawing of a dog, possibly a Weimaraner, running through a field. The dog is in profile, facing left, with its head turned slightly back. It has a sleek coat and is captured in a dynamic pose. The background consists of stylized, wavy lines representing a field or hills.

姜能學	安山松乃屋	萬和醫院	松本實一	楊山商會	正立章熙	佐古富三郎	林暎夏	安岳面長	近藤朝喜	玉乃井旅館	元楨薄	崔昌林	振威郡廳職員一同	平澤稅務署職員一同	平澤警察署職員一同	平澤驛職員一同	平澤麵子製造組合	平澤酒造株式會社	平澤自動車運輸株式會社	平澤電氣株式會社
安山松乃屋	萬和醫院	松本實一	楊山商會	正立章熙	佐古富三郎	林暎夏	安岳面長	近藤朝喜	玉乃井旅館	元楨薄	崔昌林	振威郡廳職員一同	平澤稅務署職員一同	平澤警察署職員一同	平澤驛職員一同	平澤麵子製造組合	平澤酒造株式會社	平澤自動車運輸株式會社	平澤電氣株式會社	
姜能學	安山松乃屋	萬和醫院	松本實一	楊山商會	正立章熙	佐古富三郎	林暎夏	安岳面長	近藤朝喜	玉乃井旅館	元楨薄	崔昌林	振威郡廳職員一同	平澤稅務署職員一同	平澤警察署職員一同	平澤驛職員一同	平澤麵子製造組合	平澤酒造株式會社	平澤自動車運輸株式會社	平澤電氣株式會社

新製品年

8 百貨
カテゴリー：洋服
名古屋市中区栄町四丁目
永田商店営業部
電話 西局四六二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

7
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

6
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

5
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

15
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

14
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

17
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

13
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

22
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

21
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

20
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

19
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

26
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

12
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

25
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

19
カテゴリー：靴
名古屋市中区栄町四丁目
合商山松
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

株式會社 日本郵政
名古屋市中区栄町四丁目
電話 西局九二六番
振替 名古屋一七二七九番
私書 函達第一五番

投票者
名店と所住
投票者名店と所住

名古屋

22 車 轉 首

1 國家興隆の養鶏事業
農村の振興は肥料の自給自足にて！
肥料の自給自足は養鶏が最適？
営業種目
初生雛 中雛 種雛
生産育成並養鶏
用品器具切取費
居古屋市中区広路町
服部養鶏園
電話東四三七七番

2 Superior
商 品 質 造 製
スヤリメ
一町屋百八区中市屋古名
店商治貞田前
番二二三二局本話電
番二三八八屋古名替振

3 國産米欧
バーオ型新最品行流
品製織毛新
印 公
三二尺 三二尺ニオ
金六圓三十銭
品製織毛新
印 天
三二尺 三二尺ニオ
金九圓五十銭
細糸子地
目丁三町者長下 区面市屋古名
店商田澤鏡
番六七七一局本話電
番二二八五屋古名替振

9 表段値卸 呈進代業
付毛機用寒防型新最
地生アロベ
分處切見バーオ品残
銭十五圓四十着 型前前 用代ソワ
月二十 着 型前前 用代ソワ
銭十五圓四十着 型前前 用代ソワ
定指細寸 付毛機用 寒防 型新最
店商彦藤伊
町里第区中市屋古名
番四三三四中話電
番二九六二屋古名替振

10 ドコレ 器音蓄 器楽
呈進クロタカ
屋問卸
四町見伏区西市屋古名
會商谷菊
番四五四三 局本 話電
番一三五八一 屋古名 替振

16 プミル
の庭家台一ト奉
店商利藤伊
三町松老区中市屋古名
番七三三〇一屋古名替振
番六九九三中話電

17 創業満七週年
月刊家禽図
内容充実 読代低廉無比
養鶏参考書 無代進呈
實物見本
情報商流経済迅速報導
一月五銭 一月五銭
一町見伏区中市屋古名
社 家禽中央
番五七三三中話電
番二六二九一屋古名替振

21 六片整法
手袋靴下軍手
専門製造問屋
名古屋市東区蒲田町四丁目
佐藤鈕商店
電話東局三八八二番
振替名古屋一五〇九番
振替名古屋一五〇九番

18 集募大店約特
呈進録型報商
品屋附及器音蓄 器楽絃管
屋問卸造製フ前部全
社 聲 萬
目丁二町向六區面市屋古名
番九三三話電
番一〇二屋古名替振

24 名古屋市中区鉄砲町
通業服 靴造問屋
過學服 靴造問屋
クール天服 靴造問屋
青年團服 靴造問屋
各種ズボン 靴造問屋
店支昇藤伊
電話 二二四九番
振替 名古屋二二八六
五町柳南南北 威
目丁一町金輪府城京
店支昇藤伊

23 食用茸の人工栽培
美味しい茸が誰れにも作れる新発見新事業
(長野縣) 上條義基
昨今の様な不景氣時代には、生活必需品に不足が生じている。その中でも、食用茸は、その需要が年々増加している。しかし、その生産は、従来から、長野縣の山間部などに限られていた。そこで、私は、食用茸の人工栽培に着手して、以来、既に数年、その人工栽培に成功し、その生産量を、従来の十倍にまで増やした。その結果、食用茸の需要に、十分に供給できるようになった。その人工栽培の技術は、誰でも学べる。その技術は、私の著書「食用茸の人工栽培」に詳しく載っている。その著書は、現在、私の事務所、長野縣上田市、に置いてある。その著書は、誰でも学べる。その技術は、私の著書「食用茸の人工栽培」に詳しく載っている。その著書は、現在、私の事務所、長野縣上田市、に置いてある。

25 百貨
26 地下外

20 屋問卸

12 年 新 賀 謹

のへ考測を清経の庭家と利便
すまりな用愛測す及は方測

カワノス発生器

永作製丸

永業營城京

目丁一町本府城京

三町平武南区中市屋古名・店本

6 台アスタス

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

3 品製紗強

三年の繯まざる技を示せ

の的となり、如何にして朝鮮を倒すべきかに就いては、内地、滿洲、大板、東京、愛知、北海道、は勿論全國のテニスマン舉つての検討、努力を致し、かく我々テニス朝鮮は志を茲にめぐらし斷じて王座を譲らず、再度の優勝に、して尙餘さざる事實を、我々の意氣と力を以て事實に示すべく、協力一致、勇往邁進したいものである。

やり直し再建工作にかゝれ！

今日我々一般の生活に何よりも必要と懸するやうになつたものは健全なる階級政策を目指すのスポーツ本来を精神を奮起化するでよい、と主張されてゐます

やり直し再建工作にかゝれ!

オリンピック拳闘會 植村龍郎

指導者の君をもつてゐるべき資格であると思ふべきものであります。新しき年 X X

新らしき年の始め迎へ、鄂かい所望のべると共に、社費全次第であります

暇からの温かい解解と温正な批評を絶えずしから、速に上へぬし半農半商の暇な再建工作に一致を期さつた力と振り上げ

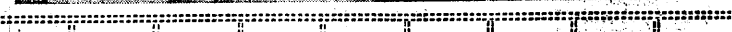
[illegible]

Figure 1

ツは職習の習得する限り永続性
を帯びてゐるものと観望できる。職
習的手続としてのこの意味では、
実効のものとはその意味に於て普
通のスポーツは異つてゐる。この
スポーツは異つてゐる。この
意味から大體に具備し、幾ば自ら
を目的とするものではなればなら
ない。現代社會のスポーツの内に
て、實を多分に帯びたるもの、上
院級のものに對する一種の觀
望、多量に受けられるが、右の如
きは前述の點からして吾々の目
間では轉稱のメチアススポーツ
とは紛してゐないので、世間
に廣がれて、列に見知して職
習性を帯びるものと混同して、
他の目的の爲に廣がれるが如
く誤解されるはメチアススポ
ーツに於て、事實が正確でない
大體にあるが故その前記點と
て、個人なる利益を職習に與へて

[illegible]
$$| \dots | \left(2 \right) \dots$$
[illegible]

東一印刷所 水原共益儀禮社 江口守夫							
宗文雄 大田醫師會						許煒	
水原管區主任						李完善	
東洋拓殖株式會社大田支店 株式會社朝鮮殖産大田支店 那製絲株式會社大田工場 株式會社漢城銀行大田支店 朝鮮興業株式會社大田管理所 日海興業株式會社大田支店 大田電氣會社 朝鮮金融聯合會忠南支部 朝鮮運送株式會社大田支店 大田金融組合 懷德金融組合 忠南無盡株式會社							
新難津公立普通學校 東明公立普通學校 山内公立普通學校 鎮岑公立普通學校 九則公立普通學校							
大田木材商組合 富士材木店 吉田材木店 明田材木店 中澤材木店 實政材木店 小澄材木店							
千代田生命大田會社 陣野範平 日本生命大田出張所 尾崎喜藏 帝國生命大田出張所 野田利八							
大田消防組							
儒城溫泉鳴館							
大田服裝雜貨商組合							
大田鐵道水曜會							
〔忠清南道農會〕							

大田加藤寫眞館 松野寫眞館 溝部寫眞館							
(附) 田中寫眞館							
忠清南道							
禮山郡農會							
義州郡廳							
義州郡農會							
水原金曜會 饅頭壤箕城券番							
田村院長 義州金曜組合 吉本五六							
佐々木繁雄 義州郵便局長 島岡熊次							
中原商店 義州警察署							
李吉泰 平安北道立 義州醫院							
築池洋服店 近藤英男							
林商店 義州公立農業學校校長							
梶道夫 龍灣金融組合							
淀川組							
古下藤一							
繼昭和洋行							
カワハシ樂浪堂							
仲村森吉							
藤野印刷所							

忠清南道警察職員一同							
大田醫務院職員一同							
忠清南道土木協會							
大田戶木齒科醫院 石光齒科醫院 田員會議道 金正昌 洙煥洙							
大田御料理 富荒銀秀柳 士家川水芳家							
大田醫師會							

